

# 公共財

「公共経済学」第5回  
別所俊一郎

# 公共財 public goods とはなにか

6

- [消費の非競合性] non-rival consumption
  - ▣ ある人の消費が他の人の消費を減少させない
  - ▣ 少しは減少させてしまうとき、「混雑」が発生している
- [消費の非排除性] non-exclusion
  - ▣ 公共財の便益を他の人に享受させないために多額の費用がかかること。
- [純粹公共財] pure public goods
  - ▣ 消費が完全に[非競合的]で、完全に[排除]不可能な財
  - ▣ いずれか一方の性質しか持っていない、あるいは完全ではないばあい、「準公共財」という

# 非競合的な財の過少供給

7

- [非競合]的で限界費用ゼロ, [排除]可能な財
  - 例: ケーブルテレビや衛星放送, 高速道路, 航空管制
  - [効率性]の観点からは排除するのは望ましくない
  - 価格が正の値をとれば, [過少]消費
  - 供給するインセンティブがなくなる→[過少]供給
- 実際, 利用料金をかけると.....
  - 限界効用 > 限界費用 = 0 であれば非効率
  - しかし, 利用料金がゼロであれば収入もゼロ
  - 供給のための[固定費用](建設費用)をカバーできない
    - 固定費用をファイナンスするための費用の大きさ?
    - 供給がもたらす消費者余剰の大きさ?

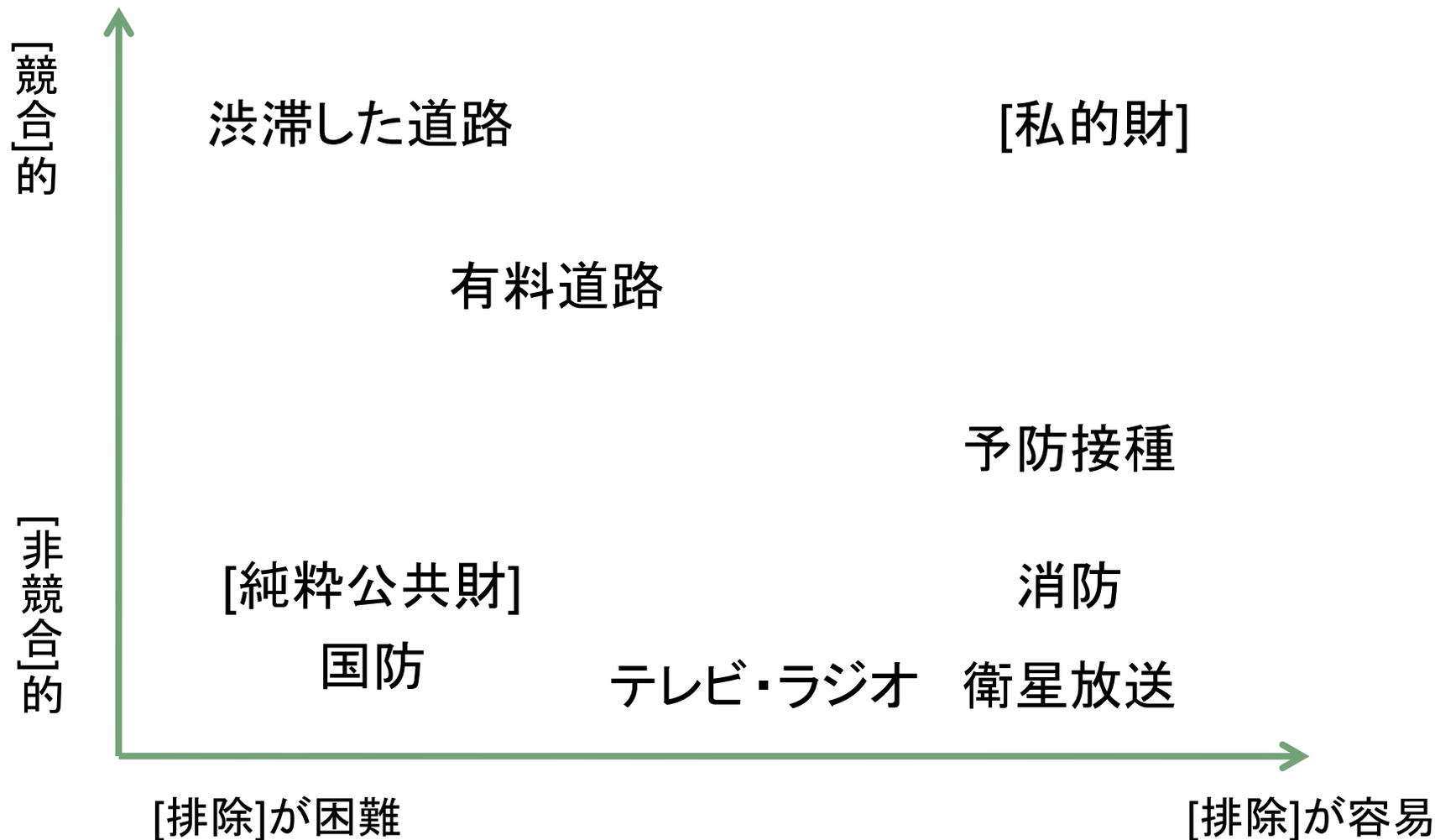
# [フリーライダー]問題

8

- [フリーライダー]問題 [free rider] problem
  - 料金を支払わなくてもサービスが受けられるとすれば、供給者側は料金を受け取ることができない:所有権の定義の問題?
  - 「自発的に」そのサービスを供給しようとはしない
  - 「公共財の過少供給問題」:まったく供給されないとは限らない
    - 自分の得られる便益と比較してあるていどの供給はありうる
  - 実験経済学では支持されないことも?
  - 「(正の)外部性」の極端な例とも考えられる
- 例:自発的な財政援助に依存する消防署, 清掃, 国防, 援助, 福祉...
- 政府が, 課税による収入でサービスを供給する理由.
  - [強制]的な費用徴収によるサービス供給

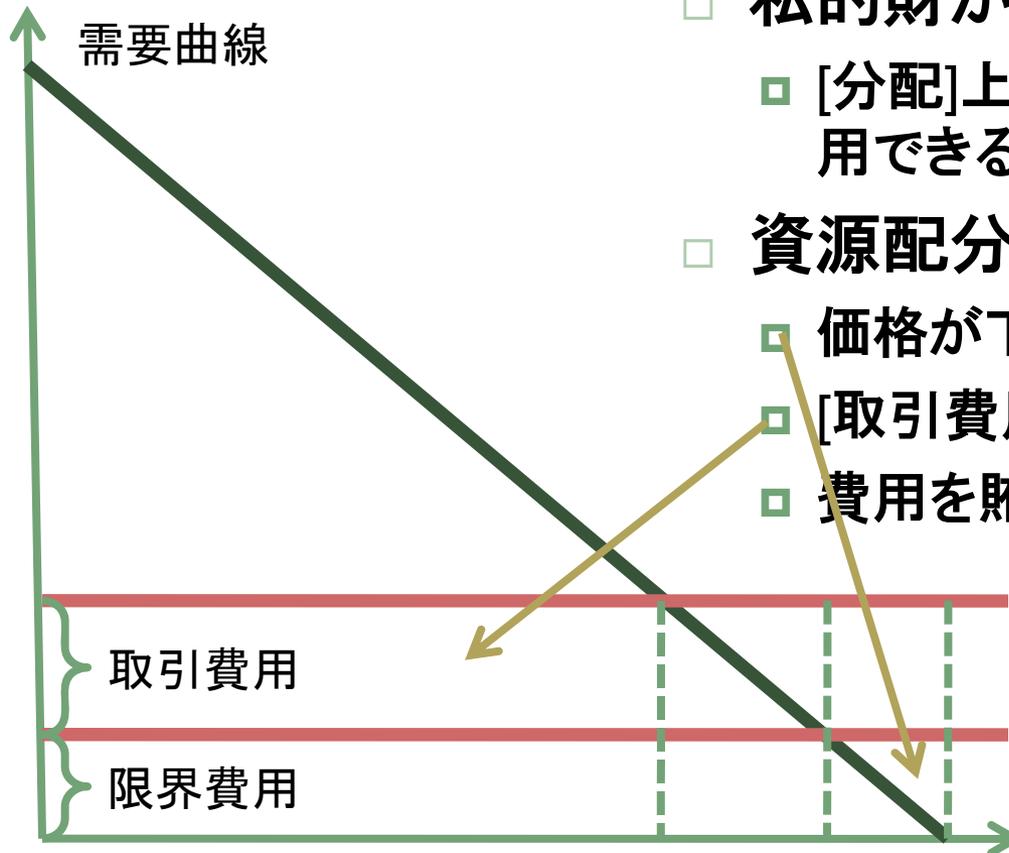
# 純粹公共財，準公共財

9



# 公的に供給される私的財

10



- 教育, 医療, 水道, . . .
- 私的財が公的に供給される理由
  - [分配]上の考慮: 所得に依存せずに利用できるべき
- 資源配分上の歪み
  - 価格が下がることによる[過剰消費]
  - [取引費用]が下がることによる便益
  - 費用を賄うための課税がもたらす歪み

# 公的に供給される私的財の 過剰消費の抑制, 割当て rationing

11

- [利用者料金]
  - ○便益を受ける(利用する)ひとが費用を負担
  - ×過少消費になる可能性. 管理費用がかかるかも
- [一律的供給]
  - ○[取引費用]を節約できる(義務教育など)
  - ×各個人にとっての最適消費量からは乖離するので非効率. 四的に追加的に消費することも
- [待ち行列] queuing
  - ○(金銭的な)所得を基準にしない
  - ×暇な人の消費を促すが, その基準は望ましくないかも. 時間が無駄.

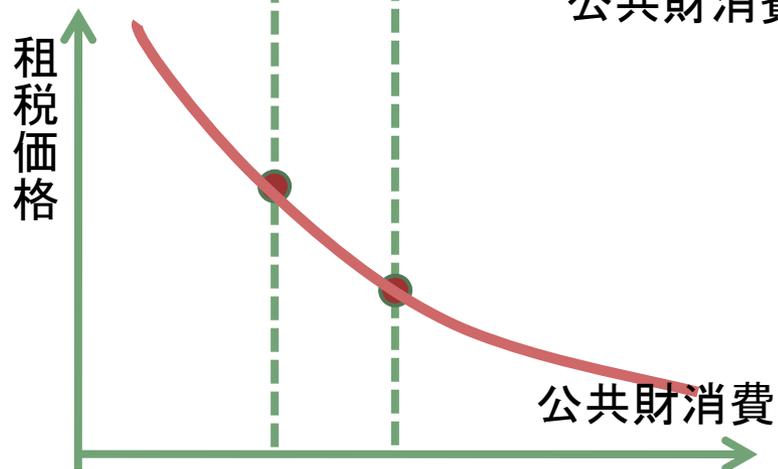
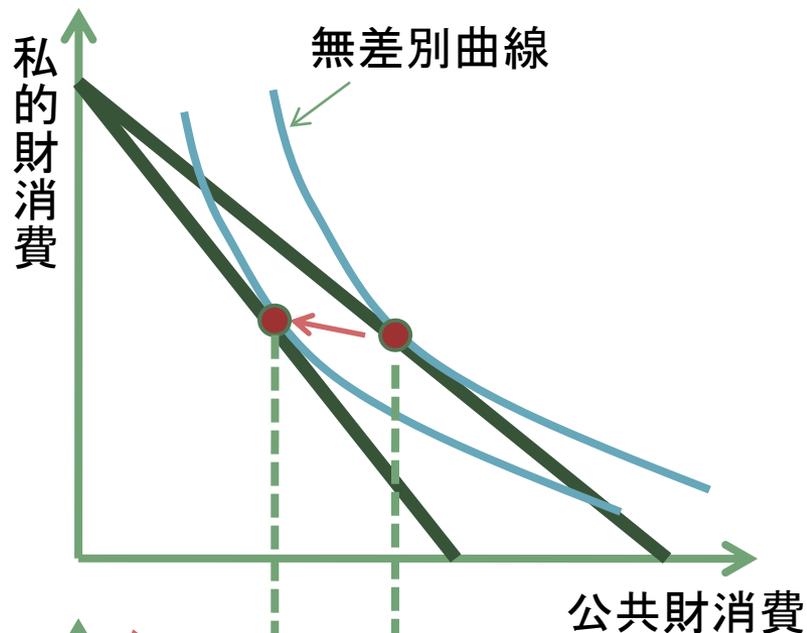
# 公共財の最適供給:[サミュエルソン]条件

12

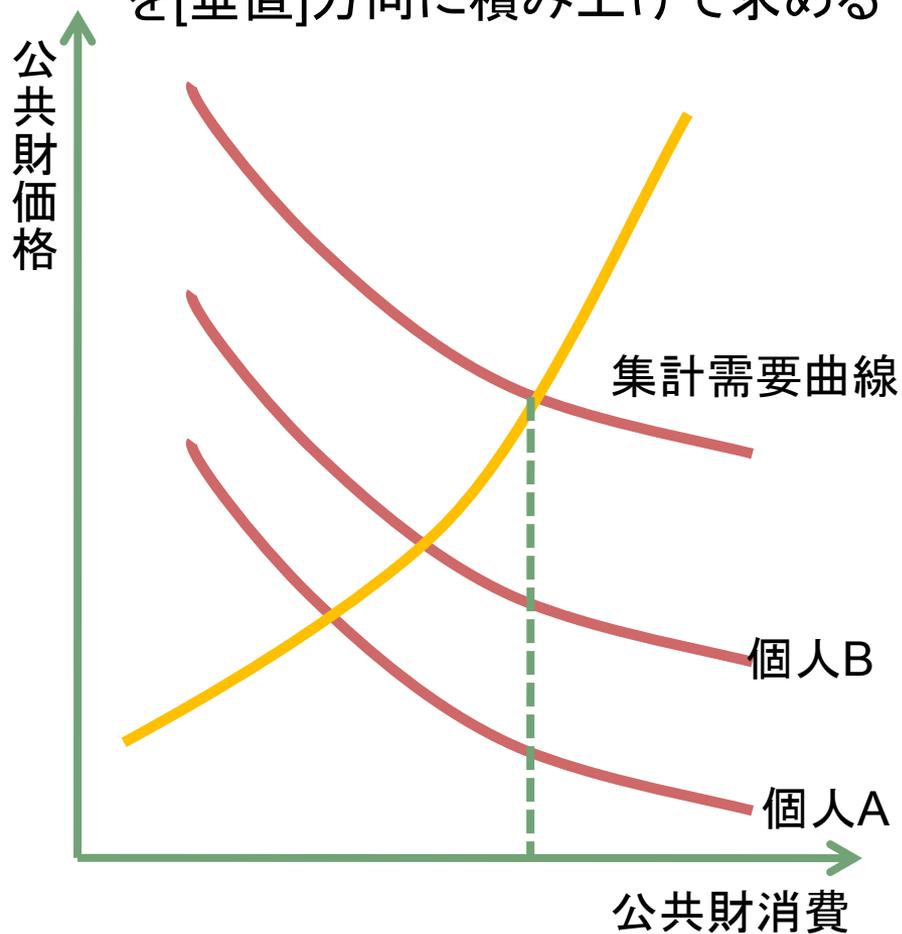
- 純粋公共財についての[サミュエルソン]条件
  - [限界代替率]の[合計]が[限界変形率]に等しい
    - [限界代替率]: 公共財をもう1単位得るためにどれだけ私的財をあきらめるかを表す比率
    - [限界変形率]: 公共財をもう1単位生産するためにどれだけ私的財をあきらめなければならないかを表す比率
  - この条件が成り立てば、公共財の生産水準は[パレート効率的]
- 公共財供給のための支払い tax price
  - もし、公共財を追加的に1単位供給するために、ある個人が支払わなければならない額(しばしば税金)が分かっているとするとき、その額のことを[租税価格] tax price と呼ぶ
  - このとき、{私的財, 公共財}という2財を消費するという状況を考えれば、ふつうの個人の消費選択の問題にほぼ等しい

# 公共財の集計需要曲線

13



□ 集計需要曲線は個人の需要曲線を[垂直]方向に積み上げて求める



# [サミュエルソン]条件の成立？

14

- 均衡は実現するか？
  - 供給曲線(限界費用曲線)と, [集計需要]曲線の交点の実現すれば効率的であるとしても, 実現するとは限らない
  - [政治]過程の性質に強く依存
  - 「慈善的な」政府では効率的な配分が達成できるかもしれないがうまいメカニズムでなければ一般には効率的にならない
- 租税価格とはなにか？
  - 純粹公共財は「等量消費」される性質があるが, 租税価格は各個人によって異なる. 公共財供給のための費用分担をあらかじめ決めておく, と想定しているのとおなじ
  - 各個人が直面する租税価格が同じであっても, [所得分配]が異なれば公共財の[需要]関数が異なる⇒最適量も異なる
  - [所得分布]によって「最適な」公共財の量はことなる

# 公共財供給のその他の論点

15

- [所得再分配]と公共財の最適供給
  - [所得分布]によって公共財の最適量は異なる
  - [社会厚生関数]を最大化するような公共財の水準という考え方も
  - 所得再分配に[行政費用]がかかるのなら, [公共財供給]の評価に際して再分配上の考慮を含めるのも有効か
- 財源調達のための[税]のもたらす歪み
  - 経済的な費用は「額面の」費用よりも大きくなる
  - [限界変形率]と比べられるべきは, 追加的な歪み(費用)を考慮した実効的な経済的限界費用(公的資金の限界費用)
  - 実行可能性曲線は[内]側にシフトしてしまう
- 「効率的な政府」もまた公共財
  - 政府が「よくできて」いれば, 全ての個人にとって望ましいし, そこから個人を排除することはよろしくない